

目 次

はしがき — 現代の書を再考するもう一つの鍵 — …………… iii

第一章 書の結社 — 西泠印社の誕生を例に — …………… 1

今に続く印学のメッカ 2 / 『古今楹聯彙刻』にみる呉隱の交友 4

『小長蘆館集帖』と上海芸苑 10 / 近代美術社団における西泠印社 18

海上題襟館金石書画会との関係 19 / 豫園書画善会と上海書画研究会 20

国学保存会と神州国光社 22 / 総合的美術社団としての西泠印社 25

第二章 書の出版 — 有正書局の出版物を例に — …………… 33

書と出版の幸福な結合 34 / 書の出版に関する研究の意義 36

関連資料・研究史 38 / 書の有力出版社一覧 43

最大手の有正書局 47 / 出版種数と類別 49

影印書跡の時代別傾向 56 / 価格設定 57

主要原件収蔵者 59 / 『清稗類鈔』鑑賞類への影響 63

有正書局出版物を典拠とする記事 65 / 使える資料、その活用 73

第三章 書の教育 — 上海美術専門学校における書の講義を例に —

上海美専と顧燮光 86

上海美専の書の教授陣 89

「書法源流論」における書の講義 92

上海美専における書の講義の位置 97

附節 顧燮光小伝 100

第四章 書の収蔵 — 羅振玉の情報収集を例に —

清末の収蔵界と羅振玉 114

羅振玉が顧燮光に宛てた尺牘 116

尺牘の執筆年代 118

羅の金石著録との関連 128

近代石刻学の新たな階梯 135

第五章 書のデータベース — 『集帖目』の法帖記録を例に —

法帖のデータベース化 140

国家図書館本の書誌 142

原本および国家図書館本の通伝 144

『集帖目』の背景と書学史的位 149

金石学・目錄学の帖学への影響 157

終章 清末における尺牘集の刊行

「尺牘学」の可能性 162

『昭代名人尺牘』の刊行とその後 165

嚴信厚編『二金蜨堂尺牘』 166

国学保存会編『明代名人尺牘七種』 168

文明書局編『名人尺牘墨宝』 177

陶湘編『昭代名人尺牘続集』 174

近代書文化の象徴としての尺牘集の刊行 183

資料編

一 有正書局法書影印書目稿 190

二 『清稗類鈔』『鑑賞類』有正書局広告解題対照表 208

三 翻刻「書法源流論」 221

四 翻刻「羅雪堂書札」 215

五 翻刻『集帖目』各家序・凡例・目錄 225

あとがき — 余技性からみた書文化の行方 —